

経団連カーボンニュートラル行動計画 2023 年度フォローアップ調査  
回答票Ⅱ（『個別業種編』原稿）

**2050 年カーボンニュートラルに向けたペット小売業界のビジョン（基本方針等）**

業界として 2050 年カーボンニュートラルに向けたビジョン（基本方針等）を策定しているか。

業界として策定している

**【ビジョン(基本方針等)の概要】**

〇〇年〇月策定

(将来像・目指す姿)

(将来像・目指す姿を実現するための道筋やマイルストーン)

業界として検討中  
(検討状況)

業界として今後検討予定  
(検討開始時期の目途)

今のところ、業界として検討予定はない  
(理由)  
まだ未着手の状態です。

## ペット小売業界のカーボンニュートラル行動計画フェーズⅡ

		計画の内容
1. 国内の事業活動における 2030 年の目標等	目標・行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加企業の店舗における目標年(2030 年度)のCO2排出量原単位を、基準年(2012 年度)と比較して同水準以下とする。</li> <li>・CO2排出量原単位は、電気使用量から算定したCO2排出量を店舗床面積及び営業時間で除して算定する。</li> </ul>
	設定の根拠	<p>対象とする事業領域： ペットおよびペット用品の販売を行う小売業者からの CO2 排出量を対象とする。</p> <p>将来見通し：ペット飼育頭数の減少に加え、法令によるさらなる業規制なども見込まれている。このような市場環境のなか、将来の見通しが立ちづらい状況にある。ただし、自主行動計画の最終年である2012年には、取り得る削減策を実施済みである。低炭素社会実行計画の目標を、2012 年比同水準以下の CO2 排出量原単位とすることは、業界の最大限の努力を踏まえた目標と考えている。</p> <p>電力排出係数：電気事業連合会における 2006 年度の使用端 CO2 排出原単位 0.410kg-CO2/kWh を前提とする。</p>
2. 主体間連携の強化 (低炭素・脱炭素の製品・サービスの普及や従業員に対する啓発等を通じた取組みの内容、2030年時点の削減ポテンシャル)		
3. 国際貢献の推進 (省エネ技術・脱炭素技術の海外普及等を通じた2030年時点の取組み内容、海外での削減ポテンシャル)		
4. 2050 年カーボンニュートラルに向けた革新的技術の開発 (含 トランジション技術)		<p>ペット小売業界は、零細規模の事業者が多くを占めており、その事業活動において CO2 排出の主な原因となっているのが、店舗での電気使用量であることから、当該計画では、電気使用量以外の調査・目標策定は行っていない。</p>

5. その他の取組・ 特記事項	・商業施設等へのテナント出店など多様な出店形態がある。そのため、電気使用量などの数値算出が不可能な場合もある。そうした店舗においても、ペット小売業における低炭素社会実行計画に参加いただき、CO2排出量の削減活動に取り組んでいただいている。
--------------------	---



# ペット小売業における地球温暖化対策の取組み

2023年 2月29日  
一般社団法人全国ペット協会

## I. ペット小売業の概要

### (1) 主な事業

標準産業分類コード：6096

ペットおよびペット用品の販売

### (2) 業界全体に占めるカバー率

後段をご参照ください。

### (3) データについて

【データの算出方法（積み上げまたは推計など）】

後段をご参照ください。

【生産活動量を表す指標の名称、それを採用する理由】

【業界間バウンダリーの調整状況】

■ バウンダリーの調整は行っていない

(理由)

□ バウンダリーの調整を実施している

<バウンダリーの調整の実施状況>

【その他特記事項】



## 業界全体に占めるカバー率

業界全体の規模		業界団体の規模		カーボンニュートラル行動計画参加規模	
企業数	22,057事業所*	団体加盟企業数	約3,700会員***	計画参加企業数	12社286事業所
市場規模	約1,200億円程度**	団体企業売上規模	-	参加企業売上規模	-
エネルギー消費量	-	団体加盟企業エネルギー消費量	-	計画参加企業エネルギー消費量	0.35万kl

出所：

\* 動物愛護管理法に基づく動物取扱業の「販売業」の登録数（令和5年4月1日 環境省調べ）。なお、「販売業」の対象となる動物は哺乳類、鳥類、爬虫類のみで（観賞魚や昆虫は対象外）、小売業者以外にもブリーダー等も含まれている。

\*\* 売上高はペット（観賞魚や昆虫等も含む動物全体）の生体市場規模（平成19年(株)野生社調べ）

\*\*\* 会員には、ペット小売業者（観賞魚や昆虫等も含む）以外にも、卸売業者やペットの販売を行っていないペットホテルやトリミング等のペットサービス業者、個人会員等も含まれている。

### 1. 計画参加企業・事業所

#### 01) カーボンニュートラル行動計画参加企業リスト

エクセルシート【別紙1】参照。

未記載

（未記載の理由）

#### 02) 各企業の目標水準及び実績値

エクセルシート【別紙2】参照。

未記載

（未記載の理由）

零細規模の事業所が多いという事情もあるが、取り組み各社の店舗数や営業内容、時間等に変動があり目標水準の設定が困難である。現時点では、できるかぎりの対策を取り組みいただけるよう依頼している。

## 2. カバー率向上の取組

### 01) カバー率の見通し

年度	自主行動計画 (2012年度) 実績	カーボンニュー トラル行動計画 フェーズⅠ策定 時 (2013年度)	カーボンニュー トラル行動計画 フェーズⅡ策定 時 (2015年度)	2022年度 実績	2030年度 見通し
企業数	23社104事業所 (0.45%)	5社80事業所 (0.37%)	11社235事業所 (1.12%)	12社286事業所 (1.30%)	1.30%
売上規模	-	-	-	-	-
エネルギー 消費量	-	-	-	-	-

(カバー率の見通しの設定根拠)

ペット小売業者数は変動し続けている。ペット飼育頭数の減少や関連法による業規制も進んでいる。市場環境は楽観視できず、零細事業者が多くを占めるペット小売業者の中から、どれだけ参加企業を増やせるかは見通しが立ちづらい。現状を維持することを当面の目標としている。

### 02) カバー率向上の具体的な取組

	取組内容	取組継続予定
2022年度	会報を通じて取組の広報を行う	有
	取組の参加事業所に参加店ステッカーを配布	有
2023年度以降	会報を通じて取組の広報を行う	有
	取組の参加事業所に参加店ステッカーを配布	有

(取組内容の詳細)

2018年度に作成した省エネルギー対策テキストをベースに、全会員を対象に年4回発行している会報誌で、低炭素社会実行計画に関する取組を継続的に発信し、省エネと経費削減を結びつけ、取り組みへの参加メリットなどをお知らせし続けている。なお、会報誌は、会員企業だけでなく当会で実施している「家庭動物管理士」資格を取得した1万8,000人強にも送信している。





データの出典、データ収集実績（アンケート回収率等）、業界間バウンダリー調整状況

【データの出典に関する情報】

指標	出典	集計方法
生産活動量	<input type="checkbox"/> 統計 <input type="checkbox"/> 省エネ法 <input checked="" type="checkbox"/> 会員企業アンケート <input type="checkbox"/> その他（推計等）	店舗床面積（㎡）×総営業時間（h）
エネルギー消費量	<input type="checkbox"/> 統計 <input type="checkbox"/> 省エネ法 <input checked="" type="checkbox"/> 会員企業アンケート <input type="checkbox"/> その他（推計等）	電気使用量（kWh）
CO <sub>2</sub> 排出量	<input type="checkbox"/> 統計 <input type="checkbox"/> 省エネ法・温対法 <input checked="" type="checkbox"/> 会員企業アンケート <input type="checkbox"/> その他（推計等）	電気使用量（kWh）×CO <sub>2</sub> 排出係数0.410 （kg-CO <sub>2</sub> /kWh）  電気事業連合会の2006年度における使用端CO <sub>2</sub> 排出係数0.410（kg-CO <sub>2</sub> /kWh）

【アンケート実施時期】

2023年11月～2023年12月

【アンケート対象企業数】

12社

【アンケート回収率】

66.6%

## II. 国内の事業活動における排出削減

### (1) 実績の総括表

【総括表】（詳細は回答票 I 【実績】参照。）

	基準年度 (2012年度)	2021年度 実績	2022年度 見通し	2022年度 実績	2023年度 見通し	2030年度 目標
生産活動量 (単位: 万㎡・ 万h)	212	205	212	210	212	212
エネルギー 消費量 (単位: 万kl)	0.35	0.33	0.35	0.35	0.35	0.35
電力消費量 (億kWh)	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14
CO <sub>2</sub> 排出量 (万t-CO <sub>2</sub> )	0.582 ※1	0.563 ※2	0.582 ※3	0.588 ※4	0.582 ※5	0.582 ※6
エネルギー 原単位 (単位: :万kl/ 万㎡・万h)	0.00166	0.00162	0.00166	0.00165	0.00166	0.00166
CO <sub>2</sub> 原単位 (単位: 万t-CO <sub>2</sub> /万㎡・万h)	0.00275	0.00275	0.00275	0.00280	0.00275	0.00275

### 【電力排出係数】

	※1	※2	※3	※4	※5	※6
排出係数[kg-CO <sub>2</sub> /kWh]	0.410	0.410	0.410	0.410	0.410	0.410
基礎排出/調整後/固定/業界指定	実排出	実排出	実排出	実排出	実排出	実排出
年度	電事連 の2006 年度	電事連 の 2006 年度	電事連 の 2006 年度	電事連 の 2006 年度	電事連 の 2006 年度	電事連 の 2006 年度
発電端/受電端	使用端	使用端	使用端	使用端	使用端	使用端

【2030 年度実績評価に用いる予定の排出係数に関する情報】

排出係数	理由／説明
電力	<input type="checkbox"/> 基礎排出係数（発電端／受電端） <input type="checkbox"/> 調整後排出係数（発電端／受電端） 業界団体独自の排出係数 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 計画参加企業の温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における非化石価値証書の利用状況等を踏まえ、基礎・調整後排出係数とは異なる係数を用いた。（排出係数値：〇〇kWh/kg-CO<sub>2</sub> 発電端／受電端）</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 過年度の実績値（2006年度 排出係数値：0.410kWh/kg-CO<sub>2</sub> 発電端／受電端）</li> <li><input type="checkbox"/> その他（排出係数値：〇〇kWh/kg-CO<sub>2</sub> 発電端／受電端）</li> </ul> <業界団体独自の排出係数を設定した理由>
その他燃料	<input type="checkbox"/> 総合エネルギー統計（〇〇年度版） <input type="checkbox"/> 温暖化対策法 <input type="checkbox"/> 特定の値に固定 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 過年度の実績値（〇〇年度：総合エネルギー統計）</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> <上記係数を設定した理由>

(4) 2022年度における実績概要

【目標に対する実績】

<フェーズⅡ(2030年)目標>

目標指標	基準年度/BAU	目標水準	2030年度目標値
CO2排出量原単位	2012	±0%に維持	0.00275

実績値			進捗状況		
基準年度実績 (BAU目標水準)	2021年度 実績	2022年度 実績	基準年度比 /BAU目標比	2021年度比	進捗率*
0.00275	0.00275	0.00280	1.8%	1.8%	98.2%

\* 進捗率の計算式は以下のとおり。

基準年度と目標年度の水準が同一のため、進捗率(%)は以下で算出した

進捗率 = (1 + (基準年度の実績水準 - 当年度の実績水準) / 基準年度の実績水準) × 100

【調整後排出係数を用いたCO<sub>2</sub>排出量実績】

	2022年度実績	基準年度比	2021年度比
CO <sub>2</sub> 排出量	0.588万t-CO <sub>2</sub>	1.0%	4.3%

(5) BAT、ベストプラクティスの導入進捗状況

BAT・ベストプラクティス等	導入状況・普及率等	導入・普及に向けた課題
	2022年度 ○○% 2030年度 ○○%	
	2022年度 ○○% 2030年度 ○○%	
	2022年度 ○○% 2030年度 ○○%	

(6) 生産活動量、エネルギー消費量・原単位、CO<sub>2</sub>排出量・原単位の実績

【要因分析】（詳細は回答票 I 【要因分析】参照）

(CO<sub>2</sub>排出量)

要因	1990 年度 ➤ 2022 年度	2005 年度 ➤ 2022 年度	2013 年度 ➤ 2022 年度	前年度 ➤ 2022 年度
経済活動量の変化				
CO <sub>2</sub> 排出係数の変化				
経済活動量あたりのエネルギー使用量の変化				
CO <sub>2</sub> 排出量の変化				

(%)or(万 t-CO<sub>2</sub>)

(要因分析を行うにあたって採用した経済活動量を表す指標の説明)

- ・経済活動量を表すものとして採用した指標(単位):
- ・本指標が経済活動量を表すものとして適切と考える理由:

(要因分析の説明)

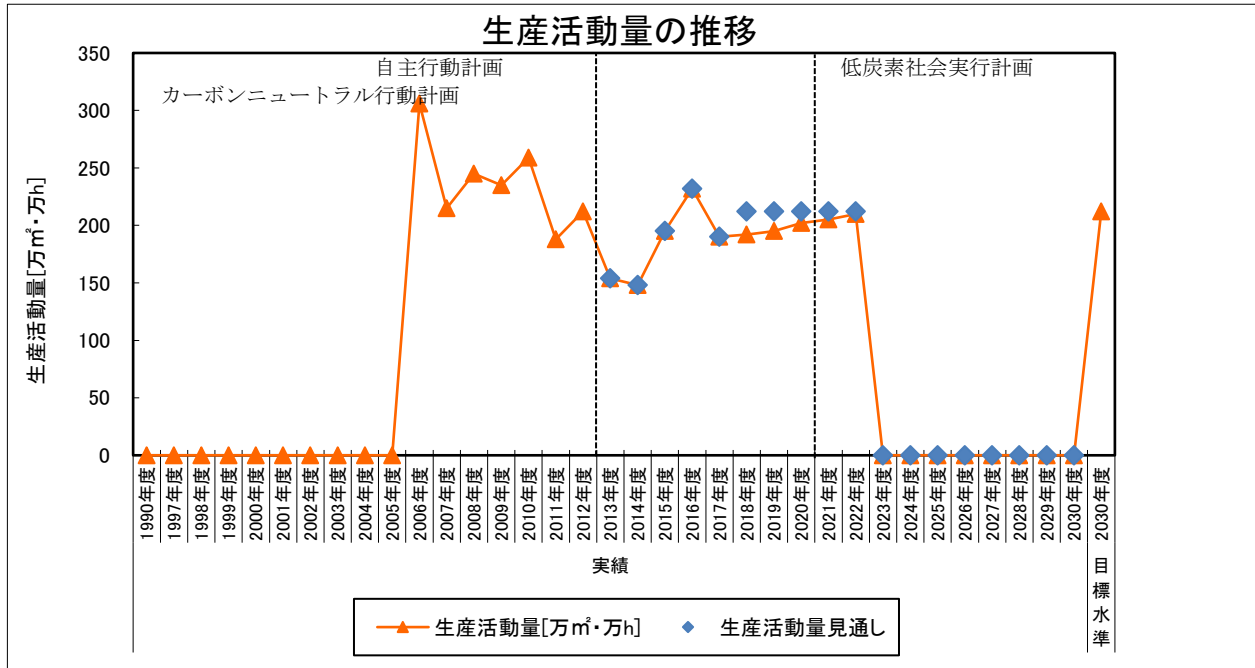
(7) 生産活動量、エネルギー消費量・原単位、CO<sub>2</sub>排出量・原単位の実績(経産省 FU)

【生産活動量】

<2022 年度実績値>

生産活動量 (単位: 万m<sup>2</sup>・万h) : 210 (基準年度比▲0.9%、2021 年度比 2.4%)

<実績のトレンド>



(過去のトレンドを踏まえた当該年度の実績値についての考察)

当該計画の参加企業における店舗の増減にも影響を受けるため、年度ごとに変動がある。

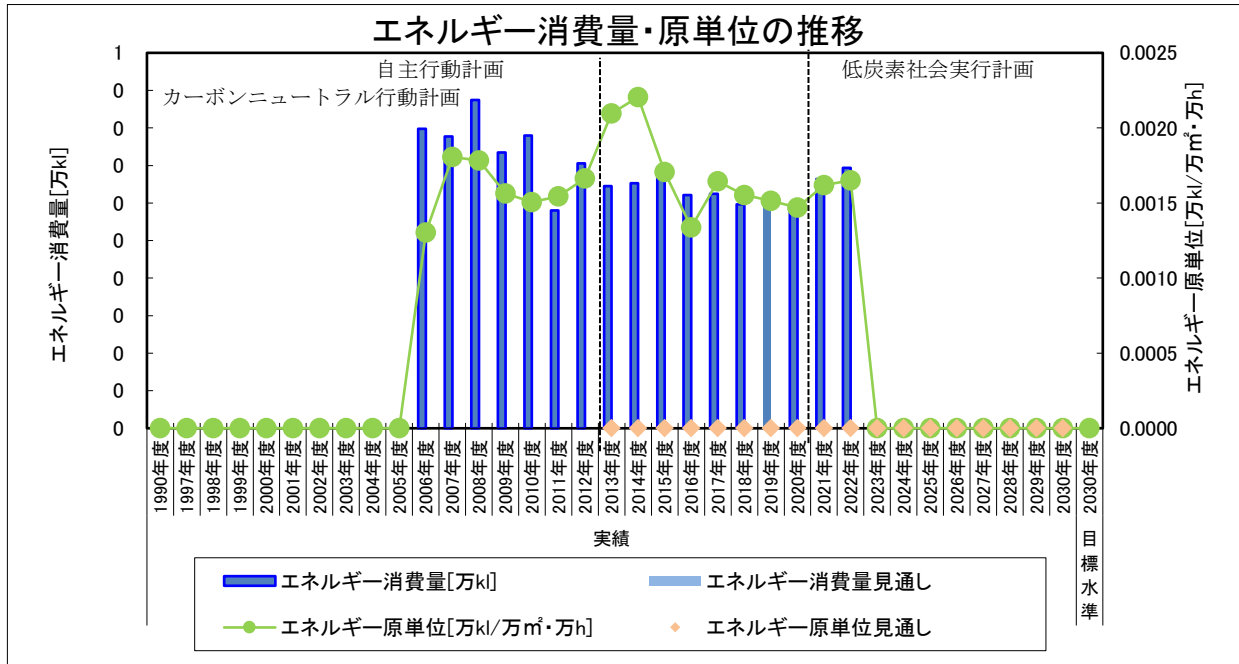
【エネルギー消費量、エネルギー原単位】

<2022 年度の実績値>

エネルギー消費量 (単位: 万kl) : 0.33 (基準年度比 9.4%、2021 年度比 6.2%)

エネルギー原単位 (単位: 万kl/万m<sup>2</sup>・万h) : 0.0017 (基準年度比 0.0%、2021 年度比 5.9%)

<実績のトレンド>



(過去のトレンドを踏まえた当該年度の実績値についての考察)  
 省エネ対策としてあげた取組事例に大きな変化はない。  
 調査からは特定できないが、エネルギー消費量および原単位が増加した要因は他にあると思われる

<他制度との比較>

(省エネ法に基づくエネルギー原単位年平均▲1%以上の改善との比較)

(省エネ法ベンチマーク指標に基づく目指すべき水準との比較)

ベンチマーク制度の対象業種である

<ベンチマーク指標の状況>

ベンチマーク制度の目指すべき水準：○○

2022年度実績：○○

<今年度の実績とその考察>

ベンチマーク制度の対象業種ではない



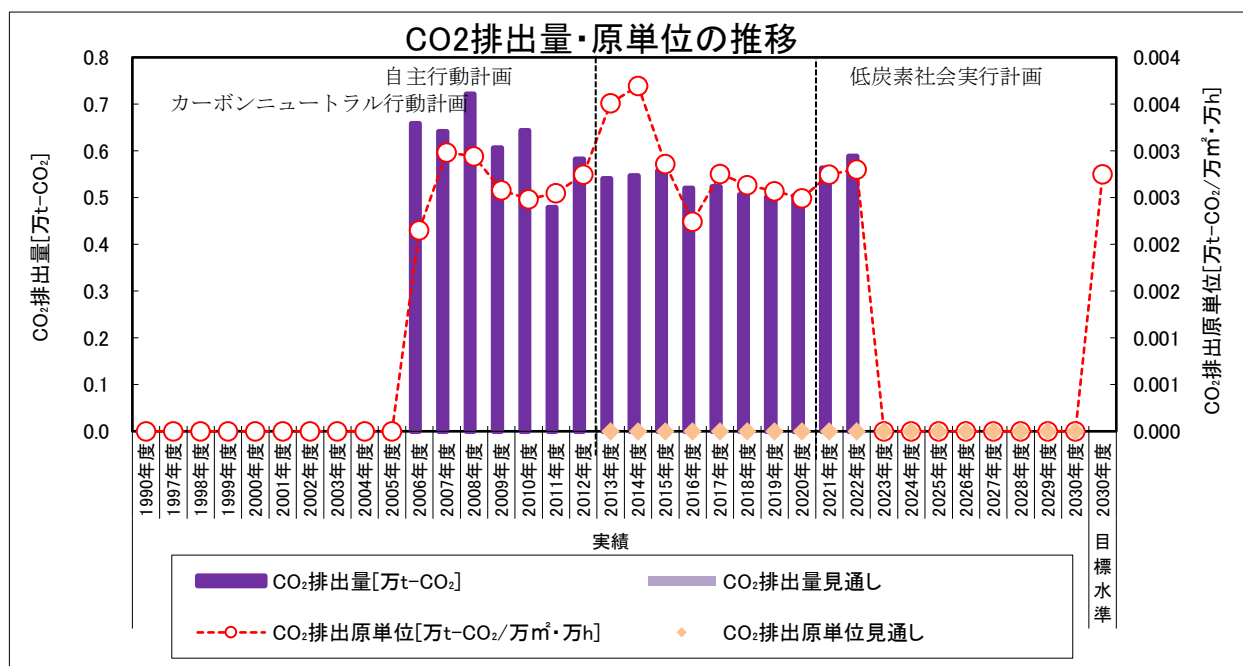
【CO<sub>2</sub>排出量、CO<sub>2</sub>原単位】

＜2022年度の実績値＞

CO<sub>2</sub>排出量（単位：万 t-CO<sub>2</sub> 電力排出係数：0.410kg-CO<sub>2</sub>/kWh）：0.588 万 t-CO<sub>2</sub> （基準年度比 1.0%、2021年度比 4.3%）

CO<sub>2</sub>原単位（単位：万 t-CO<sub>2</sub>/万 m<sup>2</sup>・万 h 電力排出係数：0.410kg-CO<sub>2</sub>/kWh）：0.00280 （基準年度比 1.8%、2021年度比 1.8%）

＜実績のトレンド＞



電力排出係数：0.410kg-CO<sub>2</sub>/kWh

（過去のトレンドを踏まえた当該年度の実績値についての考察）

省エネ対策としてあげた取組事例に大きな変化はない。

調査からは特定できないが増加要因は他にあると思われる。

【要因分析】（詳細はエクセルシート【別紙5】参照）

（CO<sub>2</sub>排出量）

	基準年度→2022年度変化分		2021年度→2022年度変化分	
	（万t-CO <sub>2</sub> ）	（%）	（万t-CO <sub>2</sub> ）	（%）
事業者省エネ努力分	-0.004	-0.7%	0.012	2.1%
燃料転換の変化	0.000	0.0%	0.000	0.0%
購入電力の変化	0.016	2.8%	0.000	0.0%
生産活動量の変化	-0.006	-1.0%	0.014	2.5%

（エネルギー消費量）

	基準年度→2022年度変化分		2021年度→2022年度変化分	
	（万k l）	（%）	（万k l）	（%）
事業者省エネ努力分	-0.003	-0.7%	0.000	0.0%
生産活動量の変化	-0.003	-0.9%	-0.347	-100.0%

（要因分析の説明）

前年度より増加しているが、基準年度の範囲内に保っている。各事業所で省エネ活動を進めた結果と考えている。

(8) 実施した対策、投資額と削減効果の考察

【総括表】

年度	対策	投資額	年度当たりの エネルギー削減量 CO <sub>2</sub> 削減量	設備等の使用期間 (見込み)
2022 年度				
2023 年度 以降				

【2022 年度の実績】

(取組の具体的事例)

照明器具の LED 化や省エネタイプのアコン等の導入は半数以上の事業所で導入されている。今後、導入を検討しているものとしては、照明のセンサー制御や全熱交換器などがあがっている。

(取組実績の考察)

導入コストが発生しない運用面での取り組みがメインではあるが、今後導入を検討している設備などもあがっている。

【2023 年度以降の取組予定】

(今後の対策の実施見通しと想定される不確定要素)

引き続き、会報誌や東京都と作成した省エネ対策テキストを活用し、啓発を進めていきたい。

零細事業所では現実的に取り組める施策は限られるため、既存の取り組みを徹底していくことも重要と考えている。

**【IoT等を活用したエネルギー管理の見える化の取組】**

現在のところ、とくに検討していない。

**【他事業者と連携したエネルギー削減の取組】**

現在のところ、とくに検討していない。

**【業界内の好取組事例、ベストプラクティス事例、共有や水平展開の取組】**

2018年度に作成した省エネテキストで、ペット小売業に特化した取組内容をまとめた。会報等を通じ、こうした情報を定期的に発信していきたい。

(9) 2030年度の目標達成の蓋然性

【目標指標に関する進捗率の算出】

基準年度と目標年度の水準が同一のため、進捗率(%)は以下で算出した

$$* \text{進捗率} = (1 + (\text{基準年度の実績水準} - \text{当年度の実績水準}) / \text{基準年度の実績水準}) \times 100$$

$$\text{計算式} = (1 + (0.00275 - 0.00280) / 0.00275) \times 100 = 96.4\%$$

【自己評価・分析】 (3段階で選択)

<自己評価とその説明>

目標達成が可能と判断している

(現在の進捗率と目標到達に向けた今後の進捗率の見通し)

(目標到達に向けた具体的な取組の想定・予定)

(既に進捗率が2030年度目標を上回っている場合、目標見直しの検討状況)

■ 目標達成に向けて最大限努力している

(目標達成に向けた不確定要素)

ペットショップ等の事業運営に影響をもたらす動物を飼養する施設のサイズ基準を含む飼養管理基準が検討されており、見通しは立ちづらい状況がある。

(今後予定している追加的取組の内容・時期)

目標達成が困難

(当初想定と異なる要因とその影響)

(追加的取組の概要と実施予定)

(目標見直しの予定)

(10) クレジットの取得・活用及び創出の状況と具体的事例

【業界としての取組】

- クレジットの取得・活用をおこなっている
- 今後、様々なメリットを勘案してクレジットの取得・活用を検討する
- 目標達成が困難な状況となった場合は、クレジットの取得・活用を検討する
- クレジットの取得・活用は考えていない
- 商品の販売等を通じたクレジット創出の取組を検討する
- 商品の販売等を通じたクレジット創出の取組は考えていない

【活用実績】

- エクセルシート【別紙7】参照。

【個社の取組】

- 各社でクレジットの取得・活用をおこなっている
- 各社ともクレジットの取得・活用をしていない
- 各社で自社商品の販売等を通じたクレジット創出の取組をおこなっている
- 各社とも自社商品の販売等を通じたクレジット創出の取組をしていない

【具体的な取組事例】

取得クレジットの種別	
プロジェクトの概要	
クレジットの活用実績	

創出クレジットの種別	
プロジェクトの概要	

(11) 非化石証書の活用実績

非化石証書の活用実績	
------------	--

(12) 本社等オフィスにおける取組  
【本社等オフィスにおける排出削減目標】

業界として目標を策定している

削減目標:〇〇年〇月策定  
【目標】  
  
【対象としている事業領域】

■ 業界としての目標策定には至っていない

(理由)

ペット小売業の多くを占める零細事業所では、店舗がオフィス機能も兼ねている場合が多い。

【エネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量等の実績】

本社オフィス等の CO<sub>2</sub>排出実績(〇〇社計)

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
延べ床面積 (万㎡):										
CO <sub>2</sub> 排出量 (万 t-CO <sub>2</sub> )										
床面積あたりの CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> )										
エネルギー消費量 (原油換算) (万 kl)										
床面積あたりエネ ルギー消費量 (l/m <sup>2</sup> )										

II.(2)に記載の CO<sub>2</sub>排出量等の実績と重複

■ データ収集が困難

(課題及び今後の取組方針)

ペット小売業は零細規模の事業所が大多数を占めており、店舗以外にオフィスを保有するケースが少ない。

**【2022 年度の実績】**

(取組の具体的事例)

(取組実績の考察)

**実施した対策と削減効果**

【総括表】(詳細はエクセルシート【別紙8】参照。)

(単位：t-CO<sub>2</sub>)

	照明設備等	空調設備	エネルギー	建物関係	合計
2022 年度実績					
2023 年度以降					



(13) 物流における取組  
 【物流における排出削減目標】

業界として目標を策定している

削減目標:〇〇年〇月策定 【目標】  【対象としている事業領域】
---

業界としての目標策定には至っていない  
 (理由)

【エネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量等の実績】

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
輸送量 (万トンキロ)										
CO <sub>2</sub> 排出量 (万 t-CO <sub>2</sub> )										
輸送量あたり CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /トンキロ)										
エネルギー消費量 (原油換算) (万 kl)										
輸送量あたりエネ ルギー消費量 (l/トンキロ)										

II.(1)に記載の CO<sub>2</sub>排出量等の実績と重複

データ収集が困難

(課題及び今後の取組方針)

**【2022 年度の実績】**

(取組の具体的事例)

(取組実績の考察)

**実施した対策と削減効果**

\* 実施した対策について、内容と削減効果を可能な限り定量的に記載。

年度	対策項目	対策内容	削減効果
2022年度			〇〇t-CO <sub>2</sub> /年
2023年度以降			〇〇t-CO <sub>2</sub> /年

## VII. 主体間連携の強化

(1) 低炭素、脱炭素の製品・サービス等の概要、削減見込量及び算定根拠

	低炭素、脱炭素の 製品・サービス等	削減実績 (推計) (2022年度)	削減見込量 (ポテンシャル) (2030年度)
1			
2			
3			

(当該製品等の特徴、従来品等との差異、及び削減見込み量の算定根拠や算定の対象としたバリューチェーン／サプライチェーンの領域)

(2) 2022年度の取組実績  
(取組の具体的事例)

(取組実績の考察)

(3) 家庭部門、国民運動への取組み  
【家庭部門での取組】

【国民運動への取組】

(4) 森林吸収源の育成・保全に関する取組み

(5) 2023年度以降の取組予定  
(2030年に向けた取組)

(2050年カーボンニュートラルの実現・トランジションの推進に向けた取組)

## VIII. 国際貢献の推進

### (1) 海外での削減貢献の概要、削減見込量及び算定根拠

	海外での削減貢献	削減実績 (推計) (2022年度)	削減見込量 (ポテンシャル) (2030年度)
1			
2			
3			

(削減貢献の概要、削減貢献量の算定根拠)

(2) 2022 年度の取組実績  
(取組の具体的事例)

(取組実績の考察)

(3) 2023 年度以降の取組予定  
(2030 年に向けた取組)

(2050 年カーボンニュートラルの実現・トランジションの推進に向けた取組)

(4) エネルギー効率の国際比較

## IX. 2050年カーボンニュートラルに向けた革新的技術(\*)の開発

\*トランジション技術を含む

(1) 革新的技術(原料、製造、製品・サービス等)の概要、導入時期、削減見込量及び算定根拠

	革新的技術	導入時期	削減見込量
1			
2			
3			

(技術の概要・算定根拠)

(2) 革新的技術(原料、製造、製品・サービス等)の開発、国内外への導入のロードマップ

	革新的技術	2022	2025	2030	2050
1					
2					
3					

(3) 2022年度の実績

(取組の具体的事例)

(取組実績の考察)



(4) 2023年度以降の取組予定  
(2030年に向けた取組)

(2050年カーボンニュートラルの実現・トランジションの推進に向けた取組)

(5) 革新的技術・サービスの開発に伴うボトルネック（技術課題、資金、制度など）

(6) 想定する業界の将来像の方向性（革新的技術・サービスの商用化の目途・規模感を含む）

(2030年)

(2030年以降)

## XI. 情報発信

### (1) 情報発信（国内）

#### ① 業界団体における取組

取組	発表対象：該当するものに「○」	
	業界内限定	一般公開
会報誌による情報発信	○	
店頭での取組店ステッカーを使った情報発信		○

#### <具体的な取組事例の紹介>

お客様に、低炭素社会実行計画に参加し、省エネ活動を行っている事業所であることを PR するための「Eco Shop——動物にも、地球にもやさしいお店」ステッカーを協力店に配布している。

#### ② 個社における取組

取組	発表対象：該当するものに「○」	
	企業内部	一般向け

#### <具体的な取組事例の紹介>

#### ① 学術的な評価・分析への貢献

(2) 情報発信 (海外)

<具体的な取組事例の紹介>

(3) 検証の実施状況

① 計画策定・実施時におけるデータ・定量分析等に関する第三者検証の有無

検証実施者	内容
<input checked="" type="checkbox"/> 政府の審議会	
<input type="checkbox"/> 経団連第三者評価委員会	
<input type="checkbox"/> 業界独自に第三者（有識者、研究機関、審査機関等）に依頼	<input type="checkbox"/> 計画策定 <input type="checkbox"/> 実績データの確認 <input type="checkbox"/> 削減効果等の評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )

② (①で「業界独自に第三者（有識者、研究機関、審査機関等）に依頼」を選択した場合)  
団体ホームページ等における検証実施の事実の公表の有無

<input type="checkbox"/> 無し	
<input type="checkbox"/> 有り	掲載場所：

**XIII. その他**

(1) CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出抑制への取組み

## XIV.国内の事業活動におけるフェーズⅡの削減目標

### 【削減目標】

<フェーズⅡ（2030年）>（2015年7月策定）

- ・参加企業の店舗における目標年（2030年度）のCO<sub>2</sub>排出量原単位を、基準年（2012年度）と比較して同水準以下とする。
- ・CO<sub>2</sub>排出量原単位は、電気使用量から算定したCO<sub>2</sub>排出量を店舗床面積及び営業時間で除して算定する。

### 【目標の変更履歴】

<フェーズⅡ（2030年）>

### 【その他】

### 【昨年度フォローアップ結果等を踏まえた目標見直し実施の有無】

- 昨年度フォローアップ結果を踏まえて目標見直しを実施した  
（見直しを実施した理由）

- 目標見直しを実施していない  
（見直しを実施しなかった理由）

基準年である2012年は、自主行動計画の最終年です。この段階では、零細な事業所でも取り得ると考えられる削減策を実施してきたところです。低炭素社会実行計画の目標を、2012年比同水準以下のCO<sub>2</sub>排出量原単位とすることは、零細事業所が多数を占めるペット小売業界の最大限の努力を踏まえた目標であると現時点では考えています。

### 【今後の目標見直しの予定】

- 定期的な目標見直しを予定している（〇〇年度、〇〇年度）
- 必要に応じて見直すことにしている  
（見直しに当たっての条件）

#### （1）目標策定の背景

基準年である2012年は、自主行動計画の最終年です。この段階では、零細な事業所でも取り得ると考えられる削減策を実施してきたところ。低炭素社会実行計画の目標を、2012年比同水準以下のCO<sub>2</sub>排出量原単位としたのは、零細事業所が多数を占めるペット小売業界の最大限の努力を行わなければ達成できない目標と考えています。

#### （2）前提条件

##### 【対象とする事業領域】

ペットおよびペット用品の小売業

【2030年の生産活動量の見通し及び設定根拠】

＜生産活動量の見通し＞

参加各社で店舗数の増減などもあり、見通しを立てることは困難です。

＜設定根拠、資料の出所等＞

【計画策定の際に利用した排出係数の出典に関する情報】 ※CO<sub>2</sub>目標の場合

排出係数	理由／説明
電力	<input type="checkbox"/> 基礎排出係数（発電端／受電端） <input type="checkbox"/> 調整後排出係数（発電端／受電端） 業界団体独自の排出係数 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 計画参加企業の温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における非化石証書の利用状況等を踏まえ、基礎・調整後排出係数とは異なる係数を用いた。（排出係数値：〇〇kWh/kg-CO<sub>2</sub> 発電端／受電端）</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 過年度の実績値（2006年度 排出係数値：0.410kWh/kg-CO<sub>2</sub> 発電端／受電端）</li> <li><input type="checkbox"/> その他（排出係数値：〇〇kWh/kg-CO<sub>2</sub> 発電端／受電端）</li> </ul> ＜業界団体独自の排出係数を設定した理由＞
その他燃料	<input type="checkbox"/> 総合エネルギー統計（〇〇年度版） <input type="checkbox"/> 温暖化対策法 <input type="checkbox"/> 特定の値に固定 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 過年度の実績値（〇〇年度：総合エネルギー統計）</li> <li><input type="checkbox"/> その他</li> </ul> ＜上記係数を設定した理由＞

【その他特記事項】

### (3) 目標指標選択、目標水準設定の理由とその妥当性

#### 【目標指標の選択理由】

自主行動計画で目標指標としていた「CO2排出量」は、店舗数の変化（床面積、営業時間など）に影響を受けやすいため、より削減活動実態を反映しやすい「CO2排出量原単位」を目標指標とした。

#### 【目標水準の設定の理由、2030年政府目標に貢献するに当たり自ら行いうる最大限の水準であることの説明】

##### <選択肢>

- 過去のトレンド等に関する定量評価(設備導入率の経年的推移等)
- 絶対量/原単位の推移等に関する見通しの説明
- 政策目標への準拠(例:省エネ法1%の水準、省エネベンチマークの水準)
- 国際的に最高水準であること
- BAUの設定方法の詳細説明
- その他

##### <2030年政府目標に貢献するに当たり最大限の水準であることの説明>

自主行動計画の最終年である2012年には、取り得る削減策を実施済みと考えており、2012年比同水準以下のCO2排出量原単位とすることは、現時点では、業界の最大限の努力を踏まえた目標であると考えています。

#### 【BAUの定義】 ※BAU目標の場合

##### <BAUの算定方法>

##### <BAU水準の妥当性>

##### <BAUの算定に用いた資料等の出所>

【国際的な比較・分析】

国際的な比較・分析を実施した（〇〇〇〇年度）  
（指標）

（内容）

（出典）

（比較に用いた実績データ） 〇〇〇〇年度

実施していない  
（理由）



【導入を想定しているBAT（ベスト・アベイラブル・テクノロジー）、ベストプラクティスの削減見込量、算定根拠】

<設備関連>

対策項目	対策の概要、 BATであることの説明	削減見込量	普及率 実績・見通し
			基準年度〇% ↓ 2022年度〇% ↓ 2030年度〇%
			基準年度〇% ↓ 2022年度〇% ↓ 2030年度〇%

(各対策項目の削減見込量及び普及率見通しの算定根拠)

(参照した資料の出所等)

<運用関連>

対策項目	対策の概要、 ベストプラクティスであることの説明	削減見込量	実施率 見通し
			基準年度〇% ↓ 2022年度〇% ↓ 2030年度〇%
			基準年度〇% ↓ 2022年度〇% ↓ 2030年度〇%

(各対策項目の削減見込量及び実施率見通しの算定根拠)

(参照した資料の出所等)

<その他>

対策項目	対策の概要、ベストプラクティスであることの説明	削減見込量	実施率見通し
			基準年度〇% ↓ 2022年度〇% ↓ 2030年度〇%

(各対策項目の削減見込量及び実施率見通しの算定根拠)

(参照した資料の出所等)

(4) 目標対象とする事業領域におけるエネルギー消費実態

【工程・分野別・用途別等のエネルギー消費実態】

出所：

【電力消費と燃料消費の比率 (CO<sub>2</sub>ベース)】

電力： 〇%

燃料： 〇%